

☆聖書で祈る☆

1 コリント 3：9～16 「神のために力を合わせて働く」

9:わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです。

10:わたしは、神からいただいた恵みによって、熟練した建築家のように土台を据えました。そして、他の人がその上に家を建てています。ただ、おのおの、どのように建てるかに注意すべきです。11:イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません。12:この土台の上に、だれかが金、銀、宝石、木、草、わらで家を建てる場合、13:おのおのの仕事は明るみに出されます。かの日にそれは明らかにされるのです。なぜなら、かの日が火と共に現れ、その火はおのおのの仕事がどんなものであるかを吟味するからです。14:だれかがその土台の上に建てた仕事が残れば、その人は報いを受けますが、15:燃え尽きてしまえば、損害を受けます。ただ、その人は、火の中をくぐり抜けて来た者のように、救われます。16:あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか。

1 コリント 12：12～18 「体は多くの部分からなっている」

12:体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。13:つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです。14:体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。15:足が、「わたしは手ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。16:耳が、「わたしは目ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。17:もし体全体が目だったら、どこで聞きますか。もし全体が耳だったら、どこでにおいをかぎますか。18:そこで神は、御自分の望みのままに、体に一つ一つの部分を置かれたのです。

▽参考資料▽

教会憲章 32 (神の民の成員である信徒の尊厳)

したがって教会の中では、すべての人が同じ道を進んでいるのではないが、すべての人が聖性に招かれ、神の義によって、同じ信仰を受けたのである(2ペトロ 1:1 参照)。ある人々はキリストの意志によって他の人々のための教師、秘義の分配者、牧者に定められているが、キリストのからだの建設に関しては、すべての信者に共通の尊厳と働きの真実の平等性がある。

『信徒の召命と使命』第2項

「あなたたちも行きなさい」この呼びかけに対するこたえを、司教、司祭、修道者といった人たちだけにまかせるようなことがあってはなりません。この呼びかけは、すべての人に向けられているからです。すなわち、信徒もまた一人ひとり主から呼びかけられ、教会のため、世界のために使命を授かっているのです。このことを思い出させるために、聖グレゴリオは説教のなかで、ぶどう園で働く人のたとえを解説してこう述べています。「親愛なる皆さん、皆さんの生きかたを少し吟味してみてください。すでに主の働き手となっているかどうか調べてください。それぞれ自分が行っていることを考え、主のぶどう園で働いているのかどうか検討すべきです」。

『信徒の召命と使命』第15項

キリストの新しいいのちに生きているということこそ、キリストにおいて洗礼を受けた者、すなわち神の民全体が平等であるための基礎であり、資格です。「肢体の品位はキリストにおける再生、神の子らの恩恵も共通、完徳への召命も共通であって、救いは一つ、希望は一つ、愛は分割されることがありません」。洗礼によるこの共通の尊厳によって、信徒一人ひとり、叙階されたすべての奉仕者と修道者とともに、教会の使命の共同責任者なのです。